

# 図書館報

# 光丘

No.156



## 染色補正士

中谷しみ抜き店

中谷 敬

私の店は、着物のしみ抜きを専門にしています。祖父が東京の日本橋で店を開いてから百年近く、戦争の時に親戚を頼りに酒田に疎開したのをきっかけに、今でも酒田で店を続けています。

文化センターは自分達の学区内にあり、子供の頃から大切な遊び場で、図書館もよく利用させてください。と言うより大変ご迷惑をおかけしてきました。そんな自分が、このコーナーを書かせていただいていることに一番驚いています。

私の仕事は、染色補正というほとんどの人が聞いたことがない職種で、せっかくこのような機会をいただいたので、染色補正について書かせていただこうと思います。

染色補正という仕事は着物を直す仕事です。しみ抜き

きはその中の一つになります。染色補正の始まりは、着物を干していた所にウグイスのフンがついてしまい、そのフンを洗ったところ、フンのついていた場所だけ着物の柄がなくなっただけというのが始まりらしい。これは、昔の着物は墨で柄を書いてある物が多く、それにウグイスのフンの中にある酵素という成分が墨のたんぱく質を分解したためです。

日本には様々な職人さんがいますが、ほとんどが何かを作ったり、形がある物だと思えます。この染色補正という職種は、完成してお客様に見せる時は何もなくなっているという状態がベストです。よくお客様に、

うちには特別なしみを取る薬があると聞かれたりするのですが、うちで使っている薬品のほとんどが一般に

洗濯で使われる物と成分は一緒です。ほとんどの物はしみだけ取ることはできず、しみを取る過程で生地の色が抜けたり、色がにじんでしまったり、縮んだり、柄がなくなってしまういます。そうなった時に、それを直すことができる技術があるかないかが一番の違いになります。

- ・色がぬけたら色を直す。
- ・色がにじんだらにじんだ所の色を抜く。
- ・縮んだら元の形に戻す。
- ・柄がなくなったら柄を書く。

お客様が見る時には、何もなくなっている物でも、しみだけ取れているわけではなく、一度壊して、少しずつ作り直しているという感じ。しみを取るという工程と技術でできています。それを直すには、作る時の工程と技術が必要になります。

この染色補正という職種は、東京、京都、金沢などにはある程度知らしめるのですが、東北地方では、ほと

んど専門でやられている方がいなく、同業者との関わりがありません。そのため、自分の技術がどの位のレベルなのか、もっと新しい技術があるのか、自分自身が井の中の蛙になるのではないかと思ひ、全国技能グランプリに出場することにしました。何度か出場の際、優勝することができ、内閣総理大臣賞もいただくことができました。それ以上に、これをきっかけに、全国トップクラスの職人さん達と交流をもつことができ、自分の足りないものや、自分の技術が間違っていたかという自信を得ることができました。

この染色補正という仕事は着物が無いとできません。今、外を歩いても着物を着ている人に会うことはほとんどありません。でも、着物という伝統文化が残っている以上、必要になる仕事だと思ひます。着物を着る特別な日を見えない所で支えていけるように、形のない物を作り続けていきたいと思ひます。

地域史料の保存について①

— 本間郡兵衛関連史料について —

庄内酒田古文書館館長 杉原丈夫

幕末動乱期に活躍した洋学者本間郡兵衛は酒田本町二丁目本間新四郎宅で次男として出生しました。

本間郡兵衛は漢学者を始め医学を平向信道、小説を滝沢馬琴、絵画を葛飾北斎、杉田成卿に蘭学をと、数多くの著名人より学びました。

また同郷の佐藤与之助や真島雄之助など学兄として敬われ、勝塾や新しく薩摩藩で開設された開成所などで英語を通して洋学など多数の子弟に教育しました。郡兵衛は若い頃から通弁(通訳)になりたいという希望があったので、早くから江戸、大坂、長崎などに出て勉強に励みました。

その間様々な著名人と接触して来ました。例えばオランダ国籍のフルベッキ、薩摩藩西郷隆盛と江戸城無血開城を成し遂

げた勝海舟と咸臨丸に乗って太平洋を横断した中濱(ジョン)万次郎、箱館五稜郭で最後まで幕府軍と戦った榎本武揚など数多い。

次に本間郡兵衛関連資料について列記してみます。

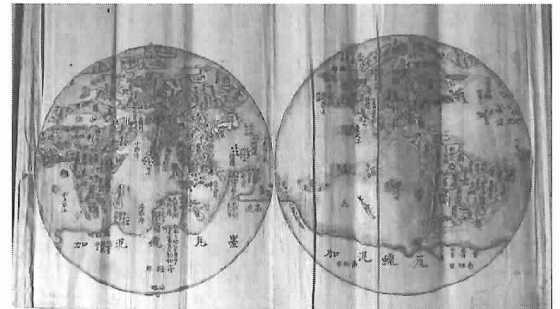
- ① 近世の廻漕史料・本間新四郎家文書目録約一、〇〇〇点
- ② 諸家文書目録VI三六一点
- ③ 本間利美家文書並びに遺品



本間 郡兵衛

- ・ 書簡類 約三〇点
- ・ 履歴等 約五点
- ・ 絵図面・地球儀 約五点
- ・ 辞典その他 約五〇点

以上



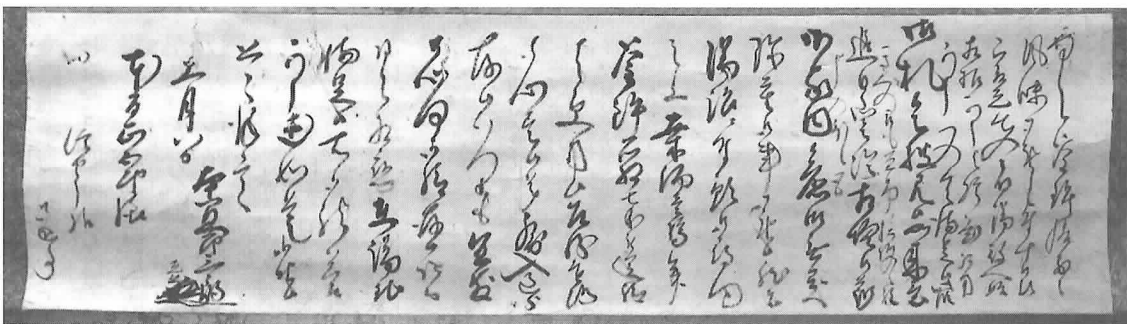
本間郡兵衛が描いた地球絵図

本間郡兵衛関連資料については上記のように目録化されたものが多いが、目録化されても活用が一般化されていないのが現状です。

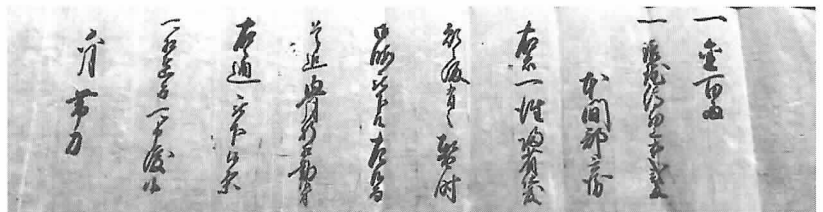
様々な所の人物より送られてきた書簡は数多いが、『酒田市史料編七・八』にすでに掲載され翻刻をされているものもあればまだ解読されていないものも数多く散見できます。

四〇才以降晩年などは薩摩藩の開成学校教師として迎えられて洋学を教えておりましたが、時代が明治維新直前でしたので、彼の足どりはなかなか捉えることは難しい。

郡兵衛の生家本間新四郎家は光丘の時代庄五郎の代人であったので光丘にまつわる書状や書簡も多い。



光丘より信四郎宛の書状



薩摩藩家老小松帯刀より頂いた金百両の御饒別並びに瑠璃縞細上布二反の送り状

- 一金百両
- 一 瑠璃縞細上布弐反
- 本間郡兵衛
- 右者 一性 帰省仕度
- 願候渡有之、暫時
- 御暇被下候、左候而
- 是迄、骨折相動候付
- 右之通被下候条
- 可相達旨、可申渡候
- 六月 帯刀

以上のように本間利美家では未だ活用が図られていない資料が数多く存在します。

これらの関連資料の整理と保存のあり方や目録化、そして活用が急がれている現状です。

（使用画像等はいずれも本間利美家所蔵史料）

# 戦前の酒田における映画館(2)

酒田市立図書館長 岩 浪 勝 彦

前回に引き続き、市内にあった戦前の映画館を紹介する。

## ○酒田館(酒田劇場)

大正五年(一九一六)に下内匠町(現パイレーツビル向かい)で開業した映画館であるが、開業当初は「酒田新聞」にも記事や広告が見当たらず、初期の運営状況については不明な点が多い。

昭和二十七年一月十三日付けの「出羽新報」連載の「新酒田風土記」では、大正五、六年頃の開館とあるほか、同年十一月十四日付けの同紙の記事によると、縄問屋を営んでいた佐藤吉兵衛が縄倉庫を改造して鶴田三郎という興行師に月五十円で貸し出すかたちで開業し、こけら落としには天活作品「柳生旅日記」を上映したが、鶴田氏は三か月借りただけで出奔したとあり、大正七年発行の市街図にも酒田館は表記されている。

なお、「酒田市史下巻 改訂版」など、資料によっては酒田館の開業を大正二年としているものもあるが、最初の上映作品である沢村四郎五郎主演の「柳生旅日記」は大正四年の作品であること、大正四年四月発行の「荘内案内記」中の「劇場・寄席」の項目には港座と大正亭の記載のみであることを考えれば、大正二年の開業は考えにくい。

なお、「酒田新聞」に掲載されている広告は大正七年九月のもののが最も早い時期であり、この段階では「日活直営酒田館」とある。このころの酒田館は映画専門ではなく、港座のように演芸も行う場所であったようである。大正七年から九年の

クリスマスには毎年、酒田基督教会によるクリスマス会が酒田館で開催されており、信者による歌や宗教劇を見に、二階が落ちるかと思うほどの満員の五百人の市民が集まったとある。

大正十三年(一九二四)七月には宮崎合名社による経営となり、主に松竹や日活作品のほか洋画も上映していた。また、大正十五年春から昭和三年までは「電気館」という名称を使っていた。昭和七年七月には佐藤吉兵衛と松竹との共同経営となり、同社作品と新興キネマ作品を上映していた。昭和十年(一九三五)七月には松竹を代表するスター女優であった田中絹代が舞台挨拶に訪れている。

昭和八年十一月十五日の「酒田新聞」には当時の酒田館の様子が掲載されており、当時はほとんどの日本映画はまだ無声であったが、楽士はバイオリンとピアノの二人だけでさびしき建物老朽化に伴い、昭和十二年九月には工費七千円の大規模な改築とともに「酒田劇場」と名称を変え、当時の映画館では一般的であった畳敷きは若干のみとし、観客席には酒田で初めて長椅子を導入したほか、喫煙室も置いた。

昭和十三年(一九三八)六月十九日には同年の正月公開映画として東京日劇で空前の大ヒットを記録したダイアナ・ダービン主演のアメリカ映画「オーケストラの少女」を東京での公開から半年遅れて、一日限りの上映を行っている。

昭和十四年十二月には、当時はまだ新興の映画会社であった東宝直営の「東宝酒田劇場」となるも、それからわずか二年後の同十六年十一

月には松竹の直営館に戻り、戦中・戦後も営業を続けた。昭和二十七年末に再度改築を行い、昭和三十年十一月以降は「酒田日活劇場」として営業を続けたが、テレビの普及に伴い、映画は斜陽産業となり、施設の老朽化もあって、昭和四十二年(一九六七)十一月十四日をもって五十年に及ぶ歴史を閉じた。最後の上映作品は、吉永小百合主演の「斜陽のおもかげ」と舟木一夫主演の「夕笛」であった。

酒田館(酒田劇場)は、中央座と並んで、日本映画の黄金期における戦前の小津安二郎作品を含む松竹映画や戦後の日活アクション最盛期作品の上映館であり、酒田の代表的な映画館の一つであった。(次号に続く)

愈十五日から開場  
豪華番組を提供  
東宝酒田映画劇場

東宝映画の酒田市場は久しく、事は今般酒田映画界によって閉全府アン特等の的であつた。事なるものあり、因みに諸君東宝本社と酒田劇場との、館館組は何時作品で入江た而して正式交結成立し今般酒田映画界、大日方博、飛田公雄の輩として乗り出す事になつた。先「吾赤紅顔大台」に「エノ股來場内外の改裝を急ぎつゝあけんの(松竹天狗)一切はエノつたが、意工工事高今十五日、ス等列れも備映映場少である。抑々し開館と決定本年、開館は初日は正午より臨時営業の興行が、酒田市場に、二十時で開館早々電光石火する東宝の事業の主要たる良心的興二十時で開館早々電光石火する行をモントリに敢然進歩したものと期待されても。

東宝専門館を報じる新聞報道  
〔酒田新聞〕昭和十四年十二月十五日号



電気館の広告  
〔酒田新聞〕大正十五年七月三十日号

# 齋藤勇歌集『母川回帰』を読む

黄雞社代表 佐藤 幹夫

歌人齋藤勇は酒田市(旧南遊佐)千代田字外野の生まれ。昭和二十年台湾より引揚げて郷里に住む。酒田商業学校に勤務しながら、短歌誌「黄雞」を創刊する。

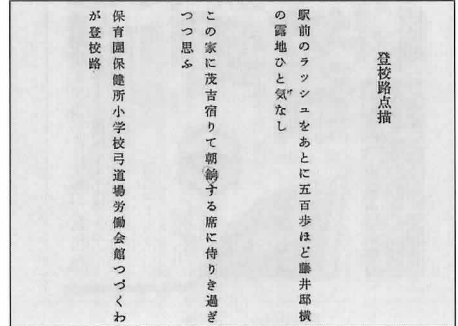
若い人には昔話のように記憶のある人にはタイムスリップした気持ちで、短歌に詠まれた「登校路」を散策してみたい。

## 「登校路点描」昭和三十八年

昭和三十七年に酒田商業高等学校の校長。昭和四十二年に第一歌集『母川回帰』を発売。この歌集に校長在職当時の酒田駅から学校までの道筋を詠んだ「登校路点描」二十一首の連作がある。この道々を徒歩でまた自転車、高校へ通った人も多はず。その後、大火に見舞われ、町の名や登校路の景も大きく変わったことだろう。



汲取車の運転手若し翳のなき表情にわれの救はるる思ひ  
汲取車車庫建設の企画貧し浜田保育園の西をふさぎぬ  
二間間ぐち三間間ぐちの家多し小市民的なる街の貌親し  
われに向くる視線定まらず顔をふり手を舞はし来る舞踏病の男  
めくら縞の古きは既に裾切れぬ舞踏病のをとこ踊りつつ来る



妻ありや子ありや舞踏病を病むこの老人を見知りて久し  
本町通りに見し記憶あり舞踏病の男は老いてこの露地に住む  
汲取ホースに凍みつく雪は汚れたり昨日の作業現場思ほゆ  
汲取車に積まれしホース太々しグロテスクなる蛇腹の曲線  
亡き父と同名同名の標札に今日も目がゆく二間ま口の家のピッケルを両手に握り軒のつらら打つ少年の足定まらず  
ザラメ雪踏めばぞくぞくぬかるなりそのぞくぞく道を今日も降り来  
借錢の相談今日はせねばならぬ人を思へば足のろくなる  
退職勧告ありし一人の防衛

に心くだきつつ来るこの裏町を  
二間ま口の家七軒目を数へたり山王堂町の軒みな低し  
この町のなりたちは知らず軒低き屋並みが親しわが登校路  
眼帯の清き少女を今日は見ず山王堂町を往き過ぎむとす  
読み通して感じるの、この裏町通りには空がないこと。だから日差しも無ければ雨も降らないこと。  
季節は「軒のつらら」と「ザラメ雪」が詠まれているから冬が中心。  
路の往き帰り、日々の天気、道辺の草を、屋根を越す木々を、行き合う人々を詠み尽くして、最後に歌人の目は、路上と両側の屋並みの歌だけを残した。齋藤勇の短歌連作の妙味がここにありと云える。

男」に四首を充てていること。汲取車の臭いを厭う素振りなど全く見せず、朝早くからエンジンを始動させて働く、若い運転手の表情を探る教師の目が温かい。また「グロテスクなる蛇腹の曲線」という詩的な驚愕には歌人の好奇心が窺える。  
汲取車の歌に挟まれるのが「舞踏病の男」の歌。舞踏病も現代医学では薬で治療されているようだが、当時はおそらく難病。病む老人を淡淡と詠みながら、その視線の冷やかさは否定できない。  
ところで、この連作を天井棧敷から観れば、舞踏病の男は、冬の裏町通りに突如現れて、ふらっと消えてゆく主人公。農村青年の演劇活動を指導した齋藤勇らしい空の無い街、音響、登場人物など、父と同名同名の標札まで全て舞台化につながると深読みできる。  
山王堂町の二間間ぐち七軒目辺りに立つ「眼帯の清き少女」まさに登校路の妖精。その影が消えて幕。  
「齋藤勇の登校路」を散策しながら、いつのまにか異域に陥ちてしまった。



# 光丘文庫

## 郷土史のアーカイブとしての役割

酒田市立光丘文庫長 岩 堀 慎 司

郷土史に興味を持ってもらえる入り口、そして全国に発信する機会となるよう、昨年度から『光丘文庫デジタルアーカイブ』をインターネットで公開しています。ただ「アーカイブ」とは云うものの、紹介しきれない資料が多く、国書の一部(所蔵資料一六二〇件)については国文学研究資料館のホームページでマイクロフィルム画像を閲覧できるので有りがたいのですが、酒田の歴史研究に要する資料についてはその多くを紹介できていません。

### ○諸家文書

光丘文庫では、国書、漢籍や一般図書のほか、市内の旧家から寄贈を受けた江戸時代以降の古文書や郷土関係資料などの「諸家文書」を所蔵しており、現在、二七旧家の文書の資料数は二万一千点余りになります。内容は、町政・土地・租税・産業・金

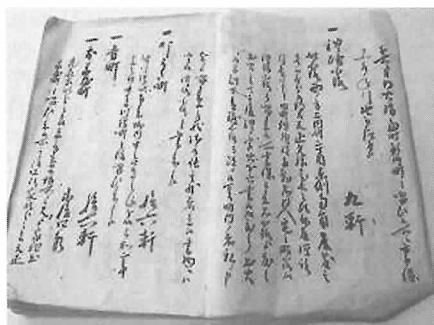
融・医療・交通・習俗などあらゆる分野に及んでおり、酒田の歴史研究に欠かせない一次資料です。

酒田民俗学会や酒田古文書同好会などには、諸家文書の御用帳、証文、書状などの断片的資料をつなぎながら、酒田の海運や商いの関係、人々の生活様式など、酒田の歴史をリアルに浮き出させ解明されている方々がおられます。こうした文書を郷土史の観点から研究されているのは、やはり地元の方です。これらの研究成果を郷土史資料として収集・活用することも文庫の役割と考えます。

### 『伊東家文書』より

江戸初期から明治に至るまで酒田内町組の大庄屋役を代々世襲してきた伊東家に伝存されてきた六千六百点余りの『伊東家文書』は、役職に関わる資料だけでなく、庄内の古記録・史料を丹念に書き写し残してくれました。

その中の『明暦二年酒田町大火絵図』(市指定文化財)は明暦二年(一六五六)の大火の記録を文政三年(一八二〇)に伊東家が書き写したもので、酒田の町並みを記録した最も古い絵図であり、町並みの幅員、各町の町名・間数・戸数などが正確に記入されています。その附書には町の創始や町名の由来が記されており、「明暦二年」がこうした研究の基点となっています。



明暦絵図における町名由来

町名の由来には、鍛冶師、大工、曲師、旅籠屋など職業にかかわるものもあります。『明暦二九年(一八九六)酒田町会決議録』中の営業税賦課に係る議案を見ると、その当時まで、鍛冶町、大工町、檜物町、傳馬町などは由来を裏

付ける居住傾向があります。が、染屋小路や肴町などは他所への移転か、職業の変遷か、その傾向は見られなくなっています。

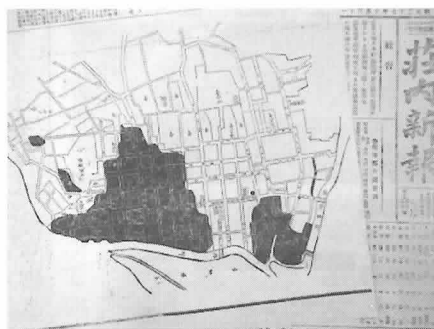
### ○新聞

新聞も酒田の歴史研究に欠かせない一次資料です。光丘文庫では、所蔵する酒田刊行の新聞を中心に、明治期から昭和三〇年までの新聞、約九万三千頁を閲覧室のパソコンで画像閲覧できます。「山形新聞」については同時期の紙面を収録したDVDを所蔵しています。また、今年度から鶴岡市との相互利用により、鶴岡刊行の新聞も閲覧できるようになりました。是非、文庫で読みやすい古新聞をご覧ください。現在は新聞ごとの日付検索ですが、より活用しやすい資料となるよう、事項ごとの記事検索を加えることが課題です。

### 『荘内新報』より

明治二七年(一八九四)一月二二日夕刻、庄内を襲った激震は酒田町を中心に大惨事をもたらしました。この庄内大地震により今町にあった庄内新報社も類焼したに

もかわらず、無事であった印刷機械で一〇月三十一日には『荘内新報』を発行しています。全4面の大半で飽海郡・田川郡の被災調べ、酒田町の惨況と焼失図、義捐金品の募集、被災対応を伝える広告などの情報を詳細に報じています。



明治27年10月31日の荘内新報

酒田の新聞発行は明治初期に始まり、明治二八年(一八九五)七月、震災により休刊していた地主層が中心となって組織した有恒会の機関紙が『荘内日報』として復刊され、翌年『酒田新聞』と改題。ようやく安定した日刊紙の発行をみる事ができたこととです。こうした日刊紙の発行に庄内大震災の経験が無関係ではなかったのだと思います。

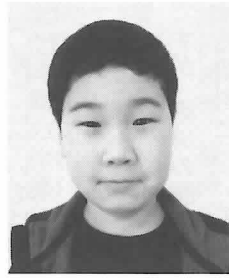


# 読者感想文

## ジョニーのように なりたい

酒田市立松原小学校

三年 小林 樹冠



ジョニーはすごい男の子です。とても強い男の子です。どうしてかという、まわりの人にじゃまされても負けないで、自分で本を読んで大時計を作ってしまったからです。

ぼくも工作が好きです。家で時間のあるときは、一人でピタゴラそうちを作ったり、夏休みのチャレンジでちょ金ばこを作ったり、何日もかけて作ひんを作ることがあります。だからこの本を読んでいます。ジョニーの「大時計

を作りたい」という気持ちがとてもよく分かりました。

でも、ジョニーとぼくには大きなちがひがありました。それは、ぼくが何か作りたいと思ったときは自由に作ることができるし、作ひんができる」と家の人はすごくほめてくれるけど、ジョニーが、「大時計を作りたい。」

と言ったとき、先生も友だちもおうえんしてくれなかったことです。小さいからどうせ作れないと思って、時計を作らせないようにお手つだいを言いつけたり、先生が、「小さいからできません。おぼかさん。」

と言ったりして、それを聞いた子どもたちからいじめられてしまいます。もしぼくだったら、あきらめて作れなかったかもしれない。ジョニーはとっても強い男の子です。

ジョニーには、助けてくれた人が二人いました。スザンナとかじ屋のジョーです。スザンナは学校の友だちで、いじめられてないでいたジョニーのことをなぐさめてくれました。そして、「大時計、ぜったいできるわ。」

と言ってジョニーのことをいつもおうえんしてくれたのです。かじ屋のジョーはジョニーが自分では作れないふりこを作ってくれたり、部ひんさがしを手つだってくれたりしました。だから大時計がかんせいしたとき、ぼくはこの大時計は、ジョニー一人で作ったのではなくて、三人でかんせいさせたんだと思います。

大時計をかんせいさせた後、ジョニーはスザンナとジョーと会社を作りました。そして国中で一番の時計屋になりました。ぼくはうれしくなりました。自分のすきなことを仕事にすることができたからです。

この本の話をお母さんにしたら、アフリカのマラウイでの記事を見つけて教えてくれました。ウィリアムさんは十四才でお金がなくて学校をやめました。図書館で電気の勉強をしました。そして、ごみしゅう集所で電線やチェーンをさがし出して、風力発電とうを作ったそうです。かんせいするまでは、仕事をさぼってごみをあさっていると言われてつらかった。

たそうです。ぼくはこの話を聞いて、せかいには本当にジョニーのような人がいるんだなとびっくりしました。

ぼくもジョニーやウィリアムさんのようにどんなことがあっても自分の決めたことやすきなことをさい後までがんばれる、強い人になりたいと思いました。

《時計つくりのジョニー》  
エドワード・アディゾー著  
あべきみこ訳

株式会社 こぐま社  
第六十五回青少年読者感想文コンクール山形県審査会

小学校中学年自由読書の部  
優秀

図書館ホームページを  
リニューアルしました

図書館情報システムの更新に伴い、二月一日より図書館ホームページを全面リニューアルしました。

利用者が行う資料検索などのスピードアップが図られるとともに、お知らせやイベント、開館状況が分かりやすく表示され、利用しやすくなります。

なお、リニューアルに伴い、ホームページでの予約などで使用するログインパスワードが、登録している電話番号の下四桁に初期化されます。

パスワードを変更している利用者の方は、初期値パスワードでログイン後、改めてパスワードの変更手続きをお願いいたします。

利用者の方にはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。



リニューアルされた図書館ホームページ

### 【執筆者紹介】△△△△

- 中谷 敬(中谷しみ抜き店)
- 杉原丈夫(庄内酒田古文書館館長)
- 岩浪勝彦(酒田市立図書館館長)
- 佐藤幹夫(黄雞社代表)
- 岩堀慎司(酒田市立光丘文庫長)
- 小林樹冠(松原小学校三年)